



「それおもんみれば、人間はただ電光朝露(ちょうろ)の、ゆめまぼろしのあいだのたのしみぞかし。～中略～もしたがいまも、無常のかぜきたりてさそいなば、いかなる病苦にあいてむなしくなりなんや。まことに死せんときは、かねてたのみおきつる妻子も、財宝も、わが身にはひとつもあいそうことあるべからず」(お文、第一条の11)

21世紀は「心の時代」と言われて久しくなるが、近年の社会のあり様を見てみると、身勝手な犯罪も多く、尊属殺人さえも日常的にと言っているほど起きている。とうてい心の時代の到来などと言うことなどではしない。

最近、紀州の億万長者の死がマスコミを賑わしているが、「不審死」として取り扱われているようで、あれこれと憶測が飛び交っている。「不審死」かどうかは私には分からないが、亡くなられた方の人生を思うとき、とてもあわれに思えてくる。まさにお文さまの通りだな、と受け止めさせていただいている。どんなに経済的に豊かで、強がりと言っている、人の生の真実に逆らうことはできないのだと、彼は身をもって教えてくれているような気がする。「愛犬」の死は彼に何をもたらしたのだろうか。最後の最期まで自分の財力だけを頼りにしていた悲しい凡夫であったのだろうか。 合掌

## あえの「こと」

樹林

輪島市珠洲市能登町穴水町などの奥能登地方では、古くから「田の神様」をおもてなしする「あえの「こと」」が行われています。「この民俗行事は、重要無形文化財に指定されており、平成二十一年にはユネスコの世界無形遺産に登録されました。

お祀りの方法は各家によって少しずつちがいはありますが、毎年十二月五日に農家の主人は紋付袴の正装で、田んぼに向き田の神様を自宅に迎え入れます。主人は目に見えない神様が居ますがごとく、丁寧に扱います。そして風呂に入っていたと、座敷に案内して盛大に食事を上げていただきます。田の神様は夫婦で目が不自由とされ、食事の際には料理を一つひとつ説明をします。田の神様には、そのまま一冬自宅を過ごしてもらい、翌年二月九日再び入浴食事を上げて頂いたあと、田んぼにお帰りのいただき、豊作を祈願して終わります。

北陸地方は信仰の篤い土地柄ですが「あえの「こと」」という農事に関わる民族行事が各戸で行われており、奥能登に住む人々の祈りの心情が伝わってきます。

写真 1・2

しよつれんいん

もんぜき

青蓮院門跡



九月の光受寺本山奉仕団として参加した帰りに参詣を予定している寺院です。「青蓮院は光受寺団体として参詣するのは2度目ですが、親鸞聖人が9歳の時、三代門主、慈鎮和尚、むちんかしよんからお得度を受けられたお寺です。その折に剃髪した髪の毛が祀られた「稻髪堂」も境内の北側にあります。

また「青蓮院は天台宗総本山比叡山延暦寺の三門跡 門主が皇室あるいは摂関家によって受け継がれてきた格式のある寺」であります。

明日ありと思つ心の仇桜 夜半に風の吹かぬものは

親鸞聖人お得度の際に詠まれたとき  
 れる歌の歳

## 今月の法語

「欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」  
『一念多念文意』

親鸞聖人は煩惱を断ち切ることができない私たちの姿をこんなふうにとらえていらっしゃる。皆さんはどう思われますか？

法に照らし出されると、私のほんとうの姿が見えてくるのですが、実はこのことがとても大事なことなのです。そしてそれがたとえどんなに醜い私の姿であったとしても、仏さまは決して見捨てることはしないのです。

それは仏さまの本来の目的や願いがここにあるからです。仏法を聞いていく機縁を与えられ、そして「このまんま」で救われていけることの有難さに頭が下がるのです。

### 光受寺学習会報告

(6月)

『正信偈』について

その構成を学びました。

大きくは三つの構成に分けられています。

○「総讃・帰敬段」  
念仏を信じるということはどういうことなのか述べるにあたって、聖人の阿弥陀如来への帰依の心を表明されています。

○「依経段」  
『大無量寿経』（釈尊が阿弥陀仏についてお説きになられたお経）によって述べてあります。

○「会釈段」  
七高僧による、お念仏についての解釈が述べてあります。

7月からは、いよいよその内容を具体的に学ぶこととなります。ぜひご参加ください。



沙羅双樹の花の色

盛者必衰のことわりをあらわす

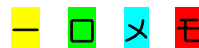
平家物語冒頭一節

光受寺の境内には沙羅双樹（しらそうじゆ）「ツツバキ」の木がありますが、毎年5月下旬から咲き始め、6月中下旬まで次々と白い花を咲かせます。花の寿命はわずかに一日。そのはかなさが平家一門の「盛者必衰」を表している、作者は感じたのでしよう。

京都の「東林院」が有名な寺です。平生は非公開ですが、6月15日～6月30日は花を愛でる会が催され公開されます。

## お盆

まもなく「お盆」を迎えようとしています。普段は遠く離れ離れになつてゐる家族も、故郷へと帰ってきます。お墓参りや盆踊りなど、故郷を思う存分味わつていただける時節です。ところで浄土真宗のお盆の仏事は特別なこととするの、そう聞かれることがあるのですが、特別ことはいたしません。お盆は先祖霊の供養ではなく、亡き人を偲びつつ、お念仏の法となつて常に私のところへ来てくださつてゐる「先祖の願いを聞いていく大切な機縁」として考えています。ですから家族がみんなで心を一つにして「正信偈」を読むことが何よりだと考えます。



浄土真宗ではお盆のことを「**歓喜会(かんぎえ)**」とも言います。亡くなられた方をご縁に頂いた命の尊さを再確認し、人として生まれお念仏の教えに出会うことができたことをあらためて喜び感謝する機会とするのです。ですから先祖の供養をするというよりも、**先祖に感謝する日**と位置づけられているのです。お仏壇は法事(年忌法要)と同じような飾り方をします。

### 8月のお知らせ

8月14日 7時より 盆勤め  
8月15日 9時より  
墨俣町戦没者追弔会  
住職法話あり